

# 社会福祉法人 吉備の里

## 令和2年度 事業報告書

### I 概要

当年度は、年間を通じて新型コロナウイルス感染が拡大し、4月に東京都他8府県に緊急事態宣言が出され、さらに全国に広がることとなった。

これを受け、法人では対策本部を設置し、会合を重ね、外部者の施設への立入り禁止や来訪者の事務局における一元的対応などの対策を講じた。また、吉備の里ふるさと祭りをはじめ、法人内の行事もほとんどを中止することとなった。

そのような中、緊急事態宣言が解除された6月には第1回理事会に続いて、定時評議員会を無事に開催することができ、事業報告や決算等について、承認を受けることができた。

7月には新型コロナウイルス感染対策として申請していた吉備の里つばき寮の個室化整備について、岡山県社会福祉施設等整備費補助金の交付内示があったため、9月に第2回理事会を開催し、事業や予算等について承認を得た上で、10月から事業を開始し、12月に完成に至った。

新型コロナウイルスの感染は第1波から第2、第3波へと続き、施設での作業にも大きな影響を及ぼした。特に、吉備の里ひなぎくの「おしぼり作業」は、飲食店の客足が遠のいたために作業が年間を通じて昨年を大きく下回ることとなった。

吉備の里希望においても上半期に下請け作業の落ち込みが見られたが、下半期には回復するとともに、「ウイルスブロック」がマスクミに取り上げられて話題になり、売り上げも前年を上回った。

また、新型コロナウイルス感染が長引くにつれ、外部の研修会や会議がオンラインで開催されることが多くなったため、法人においても内部の研修会や会議をオンラインで行うなどの対応を行った。

新年を迎えても、新型コロナウイルスは終息する気配はなかったが、1月には恒例の成人式を縮小して行い、3月には第3回の理事会を無事開

催して、次年度に向けた事業計画や予算等の承認を受けることができた。

### II 事業計画（重点目標）の検証

#### 1 福祉人材の確保

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンライン面接が多用されるなど、新規学卒者の求人が大きく様変わりする中、法人の3回の募集に対し、応募はなかった。

同時に行った正規職員の中途採用には、数名の応募があり、その中から1名を新年度へ向けて採用することができた。

非正規職員については、支援員2名、夜間支援員2名、看護師1名、世話人1名、運転員1名、調理員1名を採用し、退職者の穴埋めや不足分に充てた。ただし、募集に対して100%の採用にはなっておらず、引き続き確保が必要となっている。

#### 2 安心・安全体制の維持・強化

看護職員1名を増員して6名体制となったことで、医療・保健の推進体制が充実することとなり、健康の維持・管理支援の向上を図ることができた。

新型コロナウイルスについても、対策本部で協議し、看護職員を中心に、感染予防策を講じた。

#### 3 働き方改革への対応

国により働き方改革が進められる中、令和3年度から「同一労働同一賃金」に関する法律が中小の事業者にも適用されることとなるため、職員区分を整理するとともに、非正規職員の就業規則等を改正して休日等を中心に制度へ適用するよう対策を講じた。

ただし、賃金については、対応が十分とは言えないため、引き続き検討していくこととした。

#### 4 地域生活支援拠点整備の取組

地域で生活する障害児者の緊急時に際し、24時間、365日いかに対応するかを検討し、令和3年度から始まる吉備中央町からの委託に備えた。

法人内事業所では、吉備の里相談支援センターでの相談対応、吉備の里なでしこ及び吉備の里つばき寮での短期入所受け入れを想定しているが、需要量の予測が難しいため、新年度は様子を見ながらの対応となることが予想される。

#### 5 財政基盤の強化

収入の増加と支出の抑制により財政上のリスク軽減を図ろうとしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者の退所が減少したこと、行事等が軒並み中止となったことなどから、福祉活動による収支は比較的堅調に推移した。

一方、作業収入が減少したことから、利用者工賃を減額するなどの対応を余儀なくされた。

訓練系事業の下半期の収入の減少を抑えること、就労系事業の作業収入回復が次年度に向けた課題となる。

### Ⅲ 運営報告

#### 1 役員 (令和元年6月24日～)

役職名	氏名
理事長	釜瀬 司
常務理事	水舟 稔
理事	森本 芳
理事	中島 洋子
理事	難波 健
理事	松井久仁之
理事	岡部 初江
監事	西川 学
監事	岡野 茂一

#### 2 職員の状況

(令和3年3月31日現在)

区分	正規	非正規	計
男	20	38	58
女	15	58	73
計	35	96	131

##### ○採用

- ・正規職員 1名
- ・非正規職員 8名

##### ○退職

- ・非正規職員 10名

##### ○研修

- ・法人職員研修 1回
- ・階層別研修 5回

##### ○健康管理

- ・定期健康診断 年1回
- (夜間支援員 年2回)
- ・ストレスチェック 年1回

#### 3 事業所の運営

別表(P6)のとおり

#### 4 会議の開催

○監事監査 令和2年5月29日(金)

##### ○理事会

(第1回) 令和2年6月9日(火)

- ・定款変更について
- ・令和元年度事業報告について
- ・令和元年度決算報告について
- ・就業規則の一部改正について
- ・安全衛生管理規程及び安全衛生委員会規程の一部改正について
- ・電気保安規程の新設について
- ・各種委員会設置規程の新設について

・令和2年度定時評議員会の開催について

(第2回) 令和2年9月15日(火)

- ・吉備の里つばき寮における居室の個室化整備について
- ・吉備の里つばき寮における居室の個室化整備に伴う「修繕積立金」の取崩について
- ・吉備の里つばき寮における居室の個室化整備に伴う工事請負契約の締結について
- ・令和2年度第1次補正予算(案)について

(第3回) 令和3年3月16日(火)

- ・令和2年度第2次補正予算(案)について
- ・令和3年度事業計画(案)について
- ・令和3年度当初予算(案)について
- ・職員の種類の見直しについて
- ・働き方改革への対応について
- ・各種規程の改正について
- ・事業所管理者等の人事について
- ・苦情解決第三者委員の選任について

#### ○評議員会

(定時) 令和2年6月24日

- ・定款の変更について
- ・令和元年度事業報告について
- ・令和元年度決算報告について

○幹部職員会議 毎月2回開催

#### ○各種委員会

- ・安全衛生委員会 毎月1回開催
- ・研修委員会 年8回開催
- ・給食委員会 毎月1回開催
- ・保健委員会 毎月1回開催
- ・広報委員会 年2回開催

- ・防災委員会 年9回開催
- ・ふるさと祭り実行委員会 開催なし

## 5 行事の開催

- 吉備の里ふるさと祭り 中止
- 吉備の里運動会 中止
- 吉備の里成人式 1月8日(金)

## 6 寄附金等の収受

### ○寄附金

- ・公益信託梶谷基金 60,000円  
(吉備の里希望)
- ・公益信託梶谷基金 80,000円  
(吉備の里たんぼぼ)
- ・(有)フレッシュア 不織布マスク 4,000枚  
(吉備の里ひなざく) 72,000円
- ・利用者様御家族 100,000円  
(吉備の里希望)
- ・木の国美作推進協議会 檜板 56枚  
(吉備の里希望)
- ・高島屋労働組合岡山支部 作業用ﾌﾟﾘﾝﾀｰ 1台 24,970円  
(吉備の里希望)
- ・吉備の里家族の会 布マスク 240枚  
(吉備の里地域生活ホーム) 168,000円

### ○補助金

- ・新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金 総額 4,817,000円  
(吉備の里相談支援センター) 104,000円  
(吉備の里希望) 353,000円  
(吉備の里ひなざく) 353,000円  
(吉備の里たんぼぼ) 757,000円  
(吉備の里チャレンジ) 335,000円  
(吉備の里なでしこ) 2,009,000円  
(吉備の里つばき寮) 477,000円

(吉備の里地域生活ホーム) 429,000 円  
※他に慰労金として職員一人当たり5万円  
(総額 7,007,000 円) の支給あり

・岡山県障害者総合支援事業補助金  
総額 1,000,000 円

(吉備の里希望) 500,000 円  
(吉備の里ひなぎく) 500,000 円

・岡山県社会福祉施設等整備費補助金  
(吉備の里つばき寮) 7,431,000 円

## IV 第3期中期計画の進捗状況

### 1 社会福祉法人制度改革への対応

制度改革で求められた手続については、滞りなく完了し、コンプライアンス意識を持って法人経営を行っている。

地域における公益的な取組については、「吉備中央町社会福祉法人連絡協議会」が令和2年7月の発足し、当法人も参加したところであるため、今後、法人連携による事業が本格化するものと考えられる。

### 2 リスクマネジメント

計画期間中に交通事故や施設利用者の死亡事故が発生している。交通事故については、加害者となった事故もあったため、安全運転や事故対応に関するマニュアルの見直しを行った。

また、死亡事故についても、法人や施設・事業所が責任を問われることはなかったが、利用者支援について、万全を期すための対策を行った。

一方、全国で風水害が多発したことから、これまで火災と地震を対象としていた「防災管理規程」に風水害を加え、必要な対応等を盛り込

んだ改正を行うとともに、グループホームを中心に風水害対応計画を策定し、利用者への周知も徹底した。

さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、徹底した対策を講じるとともに、看護師を増員して医療との連携体制を構築し、利用者の健康管理支援を強化している。

### 3 苦情解決

各事業所とも苦情解決担当者と責任者を選任して利用者に知らせるとともに、第三者委員を委嘱して、苦情や事故、ヒヤリハットについて報告するなど、苦情解決システムは出来上がっている。

第3次中期計画の期間中、これまで第三者委員を巻き込んだ苦情や岡山県運営適正化委員会へ通報した事例はなく、おおむね適正な施設や事業所の運営ができています。

### 4 地域との関わり

吉備の里地域生活ホームが運営するグループホーム16か所が地域に点在し、それぞれの地区において住民との日常的かつ良好な関係を築くことができています。

また、自立支援協議会事務局を通じて、町内中学生向けにチャレンジ交流授業を行うなど障害福祉に関する啓発活動を毎年展開している。

さらに、ふるさと祭りの開催や吉備高原ふれあいロードレースへの協力を通じて、地域住民や障害者との交流を図っている。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、地域での活動が停滞しているが、沈静化を待って再開していくこととなる。

### 5 関係機関・団体等との連携

利用者の入退所時において、県内の多くの

相談支援事業所や特別支援学校、施設、企業、団体等と連携が必要となってきた。

特に、訓練系の事業所においてはその機会が多く、新たな関係作りが求められており、今のところ適切に進んでいると言える。

ただし、受け入れの方法については、宿泊場所や本来業務への影響を含め、見直す必要もある。

## 6 委員会活動

常設委員会については、法人内の施設・事業所を横断する形で定期的開催され、連絡や協議等を行うことで、法人の円滑な運営の一握を担っていることから、令和2年度に規程を設けて種類や役割等を明確にし、今後も継続していくこととしている。

また、特別委員会についても規定し、必要に応じて期間を定めて設置することとし、令和3年度に第4期中期計画策定委員会を設けて検討を進めることとしている。

## 7 広報活動・啓発活動

広報誌の発行やパンフレットの作成・配布等は、計画に沿って行っており、一定の効果は感じられる。

また、年々活用が進んできているホームページについて、更新は出来てはいるものの、タイムリーな情報が十分伝えられているとまでは言えないため、今後、工夫の余地がある。

## 8 学生実習・ボランティア等の受け入れ

保育士や社会福祉士を目指す学生の受け入れは、吉備の里希望、吉備の里なでしこ、吉備の里たんぼぼ等福祉実習を担当する社会福祉士を配置している事業所において行っており、積極的に取り組んでいると言える。

令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、利用者の安全を優先しているが、大学や短大からの要請があることから、終息すれば再開することとしている。

(別表)

社会福祉法人吉備の里 事業所一覧表

事業所区分	事業名	利用 定員	管理者名
1 吉備の里相談支援センター	特定相談支援事業	—	三村 恭一
	障害児相談支援事業	—	
	日中一時支援事業	—	
	発達支援教室	—	
	吉備中央町自立支援協議会事務局	—	
2 吉備の里希望	就労継続支援事業（B型）	40	山崎 弘一
	福祉ホーム	40	
3 吉備の里ひなざく	就労継続支援事業（B型）	35	有根元和己
4 吉備の里たんぼぼ	生活介護事業	20	平 忠士
5 吉備の里チャレンジ	就労継続支援事業（A型）	20	坂元 忠之
6 吉備の里なでしこ	自立訓練（生活訓練）事業	20	丸山 力
	就労移行支援事業	20	
	施設入所支援事業	36	
	就労定着支援事業	—	
	短期入所事業	4	
7 吉備の里つばき寮	宿泊型自立訓練事業	20	水舟 稔
	短期入所事業	空床数	
8 吉備の里地域生活ホーム	共同生活援助事業	100	平井 浩士
	自立生活支援事業	—	
法人事務局			水舟 稔

吉備の里相談支援センター  
令和2年度 事業報告書

**【 相談支援事業 】**

障害者及び障害児の将来にわたる安心した地域生活を支えるため、吉備中央町から委託を受けた相談支援事業所として、基本相談支援及び計画相談支援の両事業を通じ、事業所や関係機関との連携を図りながら、必要とされる情報の提供、助言及びサービス利用計画の作成等を行った。

**1 吉備中央町委託障害者相談支援事業**

(1) 基本相談実施日数：241日（職員3名）

(2) 支援方法別利用状況

電話相談	198
訪問相談	79
来所相談	22
同行相談	39
ケア会議	15
その他	8
計	361

(3) 障害別利用状況

身体障害	47
知的障害	43
精神障害	35
発達障害	0
難病	1
その他	0
計	126

(4) 支援内容

福祉サービスの利用等に関する支援	72
健康・医療に関する支援	60
不安の解消・情緒安定に関する支援	88
家族関係・人間関係に関する支援	27
家計・経済に関する支援	28
就労に関する支援(生活困窮を含む)	30
生活技術に関する支援	3
保育・教育に関する支援	14
障害や病状の理解に関する支援	9
その他福祉に関する支援	0
計	331

**2 計画相談支援・障害児相談支援事業**

(1) 計画作成及びモニタリング

—計画相談支援—

月	計画作成	モニタリング
4月	10	18
5月	3	25
6月	16	19
7月	9	19
8月	5	25
9月	5	22
10月	4	20
11月	4	24
12月	8	23
1月	5	24
2月	12	21
3月	17	17
計	98	257

—障害児相談支援—

月	計画作成	モニタリング
4月	4	2
5月	0	0
6月	0	0
7月	1	6
8月	0	0
9月	1	2
10月	1	3
11月	1	1
12月	3	3
1月	2	1
2月	3	0
3月	2	0
計	18	18

合計：391件（県外11件を含む。）

## (2)計画相談登録者数（令和元年度末現在）

計画相談支援	126名
障害児相談支援	24名
計	150名

基本相談については、障害者やその家族からの福祉サービス、日常生活等に関する相談（入口、折り返し）を中心に、ひきこもりケースなどへの対応、障害者の置かれた立場を代弁するという権利擁護の観点に立った介入も適宜行った。

計画相談については、昨年度の392件に対し、令和2年度は391件とほぼ横ばいの状況となっている。ただし、精神障害者への対応等により、自宅や事業所への訪問頻度は上がっており、医療機関や他事業所との連携等に要する時間も増えている。

その他、専門知識の向上を目的とした各種研修会（後見制度・権利擁護・虐待防止）へは、コロナ禍ではあったものの、リモートを活用し、積極的に参加した。

町内の相談支援事業所が2事業所のみとなっており、新たな相談ケースも定期的にあることや、困難ケースも増えてきていることで、きめ細やかなサービス提供の維持・継続も懸念される。

### 【 日中一時支援事業 】

（吉備の里地域活動支援センター「あおば」）

吉備中央町から委託を受けた日中一時支援事業所（あおば）として、障害児（主に小学校、支援学校高等部に就学されている方）への活動の場の提供、見守り、社会に適應するための訓練を実施し、家族介護者の一時的な休息、相談等を通じた育児負担の軽減を図った。

実施日数： 23日（前年度 24日）  
登録者数： 5名  
利用状況： 延べ 80名（前年度 33名）

月	延べ利用者数	対象者	実施日	備考
4月	5	4	2	土(2)
5月	7	4	2	土(2)
6月	4	3	2	土(2)
7月	7	4	2	土(2)
8月	8	4	2	土(2)
9月	4	4	1	土(1)
10月	6	4	2	土(2)
11月	6	4	2	土(2)
12月	8	5	2	土(2)
1月	9	5	2	土(2)
2月	8	5	2	土(2)
3月	8	5	2	土(2)
計	80		23	土(23)

平均利用者数： 3.5名（前年度 1.4名）

職員体制： 2名

## 4 主な活動内容

おやつ作り、体育遊び、ドライブ、社会見学、ミニシアター、クリスマス会他

近年は、町内事業所の充実等（放課後デイサービス）もあり、開所時1～2名の利用が続いていたが、令和2年度においては、町保健師や障害児親の会「てーたいむ」へのニーズ調査を実施し、PRを行ったことで、3～5名の利用となった。

また、家庭内虐待が懸念される障害児への利用も促し、対象児が安心して過ごせる場と時間の提供も行った。

### 【 吉備中央町受託事業 】

#### 町障害者等地域自立支援協議会事務局

吉備中央町から委託を受けた自立支援協議会の運営事務局として、障害のある方々が自らの“思い”と“力”を最大限に発揮して、その方らしい自立を効果的に支援する同協議会の機能強化に取り組み、共有する“セッション”協働する“イベント”を計画的に開



催し、地域共生社会（住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制）の実現に向け、重要な地域の支援体制の構築に努めた。

また、生活困窮者調整会議や中核機関準備委員会へも参加し、今後地域で懸念される障害者の高齢化や、親亡き後の見守り体制等、権利擁護支援にチームで取り組める体制整備に向けての協議を行った。

(1) セッション等

- ・運営委員会(全大会)(10 団体)
- ・専門部会(全 2 回～ 5 回)
  - 教育保育部会
    - 就学説明会、発達支援ファイルの検討
  - 生活支援部会
    - 定期部会の開催
  - 就労支援部会
    - いちおし商談会への協力
  - 精神保健部会
    - みんなの広場交流会の開催
  - 事例検討委員会
    - 事例検討会、学習会
- ・地域生活支援拠点等整備事業に向けた協議
- ・中核機関準備委員会への参加
- ・生活困窮者調整会議への参加

(2) イベント等

- ・人権啓発標語の募集(小・中学校)
 

(応募者 146 人)
  - ・山本町長とおへそミーティング(10 月 23 日)
  - ・チャレンジド交流事業 2DAYS(11 月 6・7 日)
 

加賀中学校 (講師：片山 明氏他)
  - ・事例検討委員会学習会
 

「意思決定支援について」(2 月 24 日)
- ※令和 2 年度については、新型コロナウイルス感染防止のため、下記の行事を中止した。
- 防犯・安全対策研修会
  - 視察研修
  - ロードレースふるまいボランティア(大会中止)
  - みんなおいで福祉まつり in 吉備中央町

また、全体会についても中止とし、加盟事業所への文書送付による活動報告を行った。

発達支援教室「ぼけっと」

吉備中央町から事業運営の委託(H26 年度開始)を受け、発達に支援が必要な児童及びその保護者に対し、発達を促すための療育と保護者が抱える療育上の不安軽減のための助言や必要となる支援を行った。

職員体制 : 2 名 (公認心理師 1、保育士 1)  
 対象 : 就学前の幼児 (主に 2~4 歳)  
 実施日数 : 92 日 (前年度 90 日)  
 実施曜日等 : 火曜日、金曜日  
 時間 : 9 : 20~16 : 00(1 回 50 分)  
 利用状況 : 延べ 329 人(前年度 276 人)

月	延べ利用者数	対象者	実施日
4 月	19	7	8
5 月	18	7	8
6 月	32	8	9
7 月	22	9	6
8 月	23	9	7
9 月	29	10	8
10 月	38	10	9
11 月	22	10	7
12 月	30	11	8
1 月	32	11	7
2 月	27	11	7
3 月	37	11	8
計	329	114	92

平均利用者数 : 3.6 人 (前年度 3.1 人)

事業効果 (母子療育)

例年どおりの個別/集団での療育支援 (学習、設定保育、自由遊び、読み聞かせ、排泄他) を基本に取り組んだ。

また、令和 2 年度は、まな星クリニックのスキルアップ事業によって個別での言語指導の方法を学び、言語性課題の充実を図った。

#### ■ 保護者支援の成果

本教室は、親子での療育参加を原則とし、保護者から投げかけられる日常の不安や困りに寄り添い、相談支援を行うだけでなく、現在の課題や今後の見通しなどについても伝え、子どもの発達特性の理解を促した。

また、「ぼけっと母の会」では、保護者同士日頃の悩みを打ち明け、互いをピアサポートするような相互補完的な関係が確立されていた。

#### ■ 保育園、幼稚園との連携による成果

学期に1回のペースで、教室利用児の所属園を訪問した。集団場面での様子から対象児の課題を把握し、共通支援シートを用いた情報共有を園職員と行った。

また、所属園や就学先の小学校から教諭が、ぼけっとでの療育場面の見学にも来所している。

#### ■ ぼけっと卒業生及び同保護者への支援

ぼけっとを卒業した後のフォロー教室として、例年は年に数回実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染防止の為、1回のみ開催となった。

町内に複数の事業者が開設し、障害児における地域支援の充実が図られる中において、他施設との差別化が重要な課題である。今後においても、まな星クリニックの専門職によるスーパーバイズを受けながら療育の質の向上を目指すとともに、事業所としての魅力と事業の効果を高めたいと考える。

一方、「障害福祉サービスの充実」としては「日中一時支援におけるプログラムの充実」を掲げていたが、体育館フロアの利用や屋外活動（山登り等）など、体を動かすプログラムの他、ミニシアターなど楽しみの持てるプログラムの導入も行った。

関係機関へのPR等により、1回あたりの平均利用人数も令和元年度の1.4人から3.5人へと増加している。

また、令和2年度には吉備中央町において、計画にはなかった障害者等の地域生活支援拠点整備事業の準備が整い、令和3年度より事業がスタートすることで、相談支援事業の一層の機能強化に取り組んでいくこととなる。

### 第3期中期計画の進捗状況

第3期中期計画では、「相談支援体制の充実」を重点施策に掲げており、平成30年度から相談支援員を1名増員して体制強化を図っている。

特に、吉備中央町との連携は重要となっているが、町障害者等地域自立支援協議会設立以来事務局を委託され、良好な関係を維持できている。

# 吉備の里希望 令和2年度 事業報告書

## 【 就労継続支援B型事業 】

### I 概 要

令和2年度は、年度当初から新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、マスク着用、検温、手洗い、三密回避等の徹底した感染防止に努めるとともに、国の緊急包括支援交付金及び生産活動活性化支援事業補助金を活用し、設備改修、備品購入、販売サイト立上げ等を積極的に行った。

また、行事については、コロナ禍の中において大半を中止せざるをえない状況となったが、下半期には、制限を加えた上で、ハローウィンパーティーと初詣を実施した。

#### 【事業推進体制】

利用定員 40名		
体制	管理者	1名
	サービス管理責任者	1名
	生活支援員	1名
	職業指導員	7名
	目標工賃達成指導員	1名
	看護職員	1名
	(常勤換算)	7.9名

### II 事業計画（重要事項）の検証

#### 1 生産活動の充実

令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、「湯郷ベル ホームゲームでのグッズ販売」等各種イベントの参加を中止する運びとなった。落ち

込んだ収入を確保するためにも、感染対策に使用できるハンドアシストグッズを考案し(ウイルスブロックと命名)、収入確保に尽力することができた。

自動車部品加工については、5月以降は受注量が落ち込み、収入が大幅に減少したが、11月には平常に戻って安定することとなった。

#### 【作業収入実績】 (単位：千円)

作業区分	令和元年度	令和2年度
下請作業	8,341	7,150
自主生産	6,114	9,533
計	14,455	16,683

#### 2 工賃の引き上げ

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により作業収入が落ち込み、不本意ながら平均工賃は19,305円となり、昨年度の21,535円から2,230円の減額となった。

次年度も情勢が不透明ではあるが、引き上げに努めていきたい。

#### 【工賃実績】 (単位：円)

	令和1年度	令和2年度
目標工賃	21,439	22,082
月平均工賃	21,535	19,305
(延べ人数)	(460人)	(477人)
工賃支払総額	9,906,020	9,208,400

#### 3 利用の促進

吉備中央町内のひきこもりや生活に困窮する障害者を中心に、吉備の里相談支援センターを通じて5名の新規利用者の受入れを行った。

【新規契約】

契約月日	出身地域	居住先
4月16日	吉備中央町	自宅
6月12日	吉備中央町	自宅
6月26日	吉備中央町	自宅
9月14日	岡山市	吉備の里つばき寮
令和3年 1月4日	吉備中央町	吉備の里地域生活 ホーム

【契約解除】

解除月日	理由
5月19日	高齢者施設へ移行
11月30日	一般企業へ復職

### Ⅲ 利用者の状況

#### 1 利用の状況

定員 40 名に対して月平均契約者数は 43 名（定員比 107.5%）、1 日当たり平均利用者数は 36.3 名（定員比 90.7%）であった。年間の利用状況と 3 月 31 日現在の利用者の状況は、次のとおり。

第 1 表 利用の状況 (単位：人)

月	契約数	開所日	延人数
4月	41	22	798
5月	42	21	776
6月	41	22	807
7月	43	23	853
8月	43	21	739
9月	43	22	811
10月	44	23	846
11月	44	22	776
12月	43	22	783
1月	44	21	762
2月	44	20	730
3月	44	23	823
合計	516	262	9,504

第 2 表 年齢別構成

(単位：人)

年齢区分	男	女	計
20歳以下	1	0	1
21～29歳	3	4	7
30～39歳	6	5	11
40～49歳	9	5	14
50～59歳	3	2	5
60歳以上	6	0	6
計	28	16	44
平均年齢	44.6	37.9	42.4
最高齢	68歳		

第 3 表 障害別構成

(単位：人)

障害支援区分	男	女	計
肢体不自由	13	7	20
視覚障害	1	2	3
聴覚障害	1	0	1
知的障害	11	5	16
精神障害	2	2	4
計	28	16	44

第 4 表 居住別構成

(単位：人)

居住場所	男	女	計
希望福祉ホーム	10	7	17
吉備の里GH	9	3	12
つばき寮	2	1	3
自宅	7	5	12
計	28	16	44

### Ⅳ 事業の実施状況

#### 1 防災・安全管理

消防計画に沿って、通報・避難・消火等の訓練を実施するとともに、委託業者による消火器・誘導灯・非常放送などの設備点検を実施した。

月 日	内 容
6月18日	総合避難訓練(日中・避難誘導)
7月31日	防災機器点検・消火訓練
8月28日	合同避難訓練(夜間・避難誘導)
11月16日	合同避難訓練(夜間・避難誘導)
1月29日	防災機器点検・消火訓練
2月26日	合同避難訓練(日中・避難誘導)

## 2 健康管理

総合健康診断・歯科検診等を実施し、利用者の健康管理に努めた。

### 【検診等】

月 日	内 容
6月24日	歯科検診(大森歯科医院)
8月20日 8月28日 9月8日	大腸癌検査他(検便)
10月23日 10月27日	総合健康診断 (健康づくり財団)
11月16日 11月17日	インフルエンザ予防接種 (賀陽クリニック)

## 3 利用者研修

月 日	内 容
5月23日	・工賃規程について ・令和1年度工賃実績について ・令和2年度工賃目標について ・就労継続支援B型 重要事項説明 について 利用者 30名
7月4日	・感染症予防(新型ｺﾞｯ)について ・持病対策(糖尿病)について 利用者 40名
7月13日	・歯科衛生について 利用者 42名

その他、作業時間内で下記の講話を実施した。

- ・防災について(火災・地震)
- ・健康管理について(体重・血圧)

## 4 行事

月 日	内 容
10月31日	ハロウィンパーティー (サマーパーティー代替行事) 梶谷基金助成事業 利用者 32人
1月18日	利用者初詣 吉川八幡宮 自治会役員 2人

## 5 苦情解決

自治会役員と定期的に意見交換会(年5回)を実施し、利用者からの要望を聞き、改善可能なものは実施した。また、11月16日に第三者委員会を開催し、意見交換会の内容を報告するとともに、第三者委員と自治会役員が直接意見交換を行った。

### 【第三者委員名簿】

所 属	氏 名
前吉備中央町社会福祉協議会 副会長	黒田 員米
元塚本内科医院居宅介護事業所 管理者	柳原富美男

### 【利用者自治会役員意見交換会】

月 日	内 容
4月14日	自治会長他7名 要望なし ｺﾞｯ感染防止対策について
5月13日	自治会長他5名 作業中に無駄話が多い。 自治会費・要望書回収担当者選定
7月20日	自治会長他6名

	居眠りをしている人がいる。 作業棟で大声を出すには、周りの迷惑
10月26日	自治会長他7名 要望書なし ハローウィンパーティーについて
11月16日	第三者委員会 自治会役員3名 コロナ・食事・支援者への要望他
3月8日	自治会長他6人 トイレがよく詰まる。

## 【 福祉ホーム 】

### I 概 要

新型コロナウイルスの感染防止対策として、補助金を活用したホーム内の設備、備品等（感知式水栓、ポータブルトイレ、タブレット他）の整備を行った。

また、感染防止対策のひとつとして、利用者の公共交通機関での通院を中止し、公用車による職員の通院支援を新たに実施した。

#### 【事業推進体制】

利用定員 40名		
体制	管理者	1名
	管理人	7名

### II 事業計画（重要事項）の検証

#### 1 快適な暮らしの場の提供

福祉ホーム周辺の環境整備や害虫駆除、水回りの清掃・機器整備を行った。

また、利用者からの要望により居室の清掃等も行い、快適な生活の確保を図った。

実施月	内 容
9月	洗面所の水栓：手動式から感知式へ変更
12月	専門業者による浴室床の研磨クリーニング

### 2 利用の促進

新型コロナ ウイルス感染防止の影響もあり、新規利用者の利用促進は控えた年度となった。新規利用者なし。

### III 利用者の状況

定員 40 名に対して月平均契約者数は 17.0 人であった。利用者の年齢は、男性の平均年齢は、42.0 歳、女性の平均年齢は 35.9 歳で全体の平均年齢は 39.5 歳であった。

第1表 利用の状況 (単位：人)

月	契約者数	男	女
4月	17	10	7
5月	17	10	7
6月	17	10	7
7月	17	10	7
8月	17	10	7
9月	17	10	7
10月	17	10	7
11月	17	10	7
12月	17	10	7
1月	17	10	7
2月	17	10	7
3月	17	10	7
合計	204	120	84

第2表 年齢別構成 (単位：人)

年齢区分	男	女	計
20～29歳	0	2	2
30～39歳	4	2	6
40～49歳	5	3	8
50～59歳	0	0	0
60歳以上	1	0	1
計	10	7	17

第3表 障害支援区分 (単位：人)

障害支援区分	男	女	計
5	1	0	1
4	1	2	3
3	0	1	1
2	1	0	1
1	0	1	1
未調査	7	3	10
計	10	7	17

第4表 日中活動別構成 (単位：人)

日中活動	男	女	計
一般企業等	0	0	0
A型事業所	0	0	0
B型事業所	10	7	17
計	10	7	17

第5表 出身地別構成 (単位：人)

市町村	男	女	計
岡山市	2	3	5
倉敷市	1	1	2
玉野市	3	0	3

総社市	1	0	1
高梁市	1	1	2
真庭市	1	0	1
里庄町	0	2	2
吉備中央町	1	0	1
計	10	7	17

## IV 事業の実施状況

### <食事提供>

新型コロナウイルス感染防止対策として、食堂での配席を変更し、2人掛け、同一方向に座っての食事形態とした。食事希望者には、給食委員会での協議や嗜好調査を踏まえ、季節感のある食事を提供できた。

### <健康・衛生管理>

新型コロナウイルス感染対策として、朝・昼の検温を実施し、体調不良の早期発見に努めた。また、集団生活していることから、インフルエンザやノロウイルスなどの感染性の疾患も含め、うがいや手洗いの励行・マスクの着用など周知することで、集団感染施策の徹底を図った。食事制限などが必要な方には、健康管理の大切さなどの助言を行うなど、安心できるサービス提供を実施した。

### <安全管理>

消防計画に沿って防災訓練や定期設備点検を行い、利用者の安全確保に努めた。

月日	内容
6月18日	総合避難訓練(日中・避難誘導)
7月31日	防災機器点検・消火訓練
8月28日	総合避難訓練(夜間・避難誘導)

11月16日	合同避難訓練(夜間・避難誘導)
1月29日	防災機器点検・消火訓練
2月26日	合同避難訓練(日中・避難誘導)

11月16日	第三者委員会 ・コロナ・食事・支援者への要望他
3月19日	・冷蔵庫の冷却が悪い、改善要望 ・娯楽室で不適正な発言が時々ある。

### <苦情解決>

自治会役員と定期的に意見交換会（年5回）を実施し、利用者からの要望を聞き、改善可能なものは実施した。また、11月16日に第三者委員会を開催し、意見交換会の内容を報告するとともに、第三者委員と自治会役員が直接意見交換を行った。

#### 【第三者委員名簿】

所 属	氏 名
前吉備中央町社会福祉協議会副会長	黒田 員米
元塚本内科医院居宅介護事業所管理者	柳原富美男

#### 【利用者自治会役員意見交換会】

月 日	内 容
4月14日	・新型コロナ感染防止対策について
5月13日	・Wi-Fi の設置要望 ・トイレの箒の改装要望 ・浴室のカビ取り要望 ・自動販売機について
7月20日	・他事業所利用者が、通路で寝ている、走っている、改善要望 ・食堂のへこみ箇所の改善要望
10月26日	・要望書なし ・ハローウィンパーティーについて

### <新型コロナ対策>

新型コロナ感染対策に伴い、「吉備の里 BCP」においてゾーニング計画を策定。男子4号棟を濃厚接触者ゾーンとして明確にし、感染が疑われる際には、直ちにゾーニングが行える準備を図った。

#### 【第3期中期計画の進捗状況】

令和元年度に引き続き送迎エリアの拡充を図り、町内利用者の自宅までの送迎件数を増やした。併せて、新型コロナ感染対策も含め、在籍利用者2名（吉備中央町、高梁市）が在宅支援を利用するなど、コロナ禍においても、安心して在宅での支援が可能となるよう援護機関と調整を行った。

重度化への対応としては、個々のニーズに応じて居宅介護（ホームヘルプ）サービスを法人外の事業所と契約をして行い、居室の清掃等現在の福祉ホームサービスでは行き届かない生活支援を補完している。

このような制度的な支援体制の限界を踏まえ、福祉ホームからグループホームへの転換については、継続して協議を要する。高齢化、重度化への対応は勿論のこと、転換後の経営面も含め、総合的な検討を行っていく。



# 吉備の里ひなぎく

## 令和2年度 事業報告書

### I 概 要

平成25年4月より障害福祉サービスの就労継続支援B型事業所（定員25名）の単独施設として運営を開始し、おしぼり作業を中心に生産活動や就労に必要な知識の習得や能力の向上に向けた支援を行った。27年4月1日から定員を30名に変更し、更に30年4月1日からは35名に増員し、多くの障害者の方の活動の場となっている。

### II 事業計画（重要事項）の検証

#### 1 利用者の確保

定員35名に対し、34名の方と利用契約を行い、1日当たり平均利用者数は31.0人、利用率は91.1%であった。

第1表 利用率及び福祉活動収入の状況

区分	元年度	2年度
定員	35名	35名
開所日	269日	259日
延利用者数	8,604人	8,044人
月平均利用者数	31.9人	31.0人
1日当たり利用率	91.1%	91.1%
収入 (単位：千円)	64,963	64,753

(※利用率計算について少数点第2以下切り捨て)

#### 2 利用者支援の充実

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、利用者の検温測定、マスクの着用、手洗い、うがいソーシャルディスタンスを保つての昼食摂取等の感染予防に努めながら、日中活動の支援を行った。

#### 3 工賃の向上

新型コロナウイルス感染症の影響により、作業量の減少と共に収入も減額となったため、昨年度より大幅に工賃支給額が減少となった。

第2表 工賃支給状況 (単位：円)

区分	元年度	2年度
年総支給額	8,888,515	6,115,980
時間単価	184	130
月額平均/人	21,113	14,953
県B型工賃 月額平均	14,913	未発表

第3表 作業収入状況 (単位：千円)

区分	元年度	2年度
おしぼり生産	39,446	25,787
配送手数料	105	38
合計	39,551	25,825

### III 利用者の状況

第4表 利用の状況

月	開所日数	延利用者数	月平均利用者数
4	22日	685人	31.1人
5	19日	588人	30.9人
6	22日	711人	32.3人
7	23日	729人	31.6人
8	21日	645人	30.7人
9	22日	670人	30.4人
10	22日	690人	31.3人
11	21日	647人	30.8人
12	24日	708人	29.5人
1	20日	619人	30.9人
2	20日	627人	31.3人
3	23日	725人	31.5人
計	259日	8,044人	31.0人

(※利用率計算について少数点第2以下切り捨て)

第5表 年齢構成 (令和3年3月末日)

年齢区分	男	女	計
20未満	0人	0人	0人
20～29歳	7人	2人	9人
30～39歳	8人	4人	12人
40～49歳	5人	5人	10人
50歳以上	3人	0人	3人
合計	23人	11人	34人
平均年齢	34.8歳		

第6表 利用者の居住先 (令和3年3月末日)

区分	自宅	GH	つばき寮	計
男	14人	8人	1人	23人
女	6人	5人	0人	11人
計	20人	13人	1人	34人

第7表 送迎車両利用状況 (令和3年3月末日)

区分	岡山便	倉敷便	総社便	町内便	合計
男	5人	2人	4人	2人	13人
女	2人	1人	2人	1人	6人
計	7人	3人	6人	3人	19人

## IV 事業の実施状況

### <相談及び援助>

相談支援事業所及び各関係機関と連携し、利用者の心身の状況や健康等の把握に努め、利用者及び家族に対し適切な情報提供を行った。

### <生産活動>

おしぼり作業において、全国に感染拡大している新型コロナウイルス感染症によるイベント等の中止、外食産業における時間短縮の営業、休業や廃業等が多くあり、作業受注量が大幅に減少したことから、売上げが昨年度より34.7%、約13,726千円の減収となった。(第3表参照)

### <社会参加支援>

年間8回の施設行事を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響から予定していた行事が中止となり、12月のクリスマス茶話会及び3月の慰労会のみを施設内で規模を縮小して開催した。

第8表 社会参加状況

日程	内容	
4月	歓迎会・花見会	中止
6月	ふるさと祭り	中止
	ボウリング大会	中止
9月	社会見学及び研修旅行	中止
11月	おしぼり協会懇親会	中止
12月	クリスマス茶話会	開催
1月	初詣・新年会	中止
3月	慰労会	開催

### <職場実習、求職活動等の支援>

利用者の適性や希望(意向)を尊重し、求職活動に向けた支援に取り組んだが、一般就労やA型事業所での就労へ移行することはできなかった。

### <食事提供>

利用者をメンバーに加えた給食委員会で協議や嗜好調査を行い、栄養バランスがとれた季節感ある食事の提供を行った。

### <健康管理>

定期健康診断の実施と作業後の手洗い・うがいの励行に努めた結果、新型インフルエンザに感染する利用者は発生しなかった。また、新型コロナウイルス感染対策として通所利用者の通所前、通所後の検温と昼食後の検温等を行い、利用者の健康管理に努めた。

### <安全管理及び防災対策>

日々の作業開始前に作業上の安全や危険防止について、繰り返し指示、指導を行うとともに、消

防訓練や地震発生を想定し、防災訓練を実施した。

また、消防設備については、業者による年2回の専門的な点検を実施するとともに、毎月消火器や避難経路等について自主点検を行った。

#### <職員研修>

各研修会を通じ、全職員が利用者支援の基礎から専門分野に至るまでの個々の段階に応じた研修に参加し、自らの資質向上に努めた。

#### <苦情解決>

第三者委員会を年3回（7月・11月・2月）開催した。利用者及び保護者からの苦情受付は、なかった。

第9表 第三者委員名簿

所 属	氏 名
前吉備中央町社会福祉協議会 副会長	黒田 員米
元塚本内科医院居宅介護事業所 管理者	柳原富美男

#### <ヒヤリ・ハット及び事故>

第10表

年月	詳細
5月22日 8月14日	○送迎車両運行における苦情 (内容) 2件ともに「送迎車両にあおられた」との苦情電話
6月22日	○送迎車両の交通事故 (内容) 総社市駅前交差点で、赤信号を無視してきた乗用車と衝突し、利用者2名送迎運転手及び相手方もけがはなく、物損事故として処理
9月24日	○利用者転倒事故 (内容) 作業終了後の帰宅前、アスファルト敷地内を走って移動中に靴が脱

	げて転倒し、両腕肘と手のひらを負傷
--	-------------------

#### <その他>

新型コロナウイルス感染対策として行われた国の緊急包括支援交付金及び生産活動活性化支援事業補助金を活用し、設備の点検、改修、備品購入等を積極的に行った。

- ・緊急包括支援交付金 353,000 円
- ・生産活動活性化支援事業補助金 500,000 円

## V 第3期中期計画の進捗状況

### ○福祉サービスの充実

「工賃の向上」について、令和元年度まで減額することはなく、毎年向上することができていたが、令和2年3月ごろから全国的に発生した新型コロナウイルス感染症により、飲食店等を中心に取引をしているおしぼり生産作業は大きな影響を受け、作業受注量が大幅に減少し、継続しての工賃向上にはつながらなかった。

新規作業の導入（農作業等）については、現在も検討中である。

利用定員の拡大について、平成25年度に20名から25名、平成27年度には30名、そして、平成30年度には35名に増員し、目標数値の40名までには、あと5名となっている。

### ○一般就労の促進

企業への職場体験実習には参加できているが、就労までには至っていない状況である。

### ○新規利用者の促進

支援学校、通信制高等学校からの卒業生3名と町内外から4名、計7名の新規利用者の受け入れを行うことができおり、目標数値の10名までには、あと3名となっている。

# 吉備の里たんぼぼ

## 令和2年度 事業報告書

### I 概要

平成25年4月より、障害福祉サービスの生活介護事業所(定員20名)として開設し、8年目を迎えた。

活動内容としては、全員に対して自立に向けた生活支援を行いながら、利用者の希望や障害の状況、特性に応じて創作活動や健康づくり、体力維持活動等を積極的に取り入れている。また、発達障害のある利用者に対しては、スケジュールの可視化や感覚過敏対策を講じるなどの配慮を行うとともに、新型コロナウイルス感染対策も兼ねてパーテーションを設置し、個人スペースを設けながら、興味領域の活動に集中できるよう環境改善を図った。

### II 事業計画(重要事項)の検証

#### 1 利用率の向上

年度当初には21名でスタートしたが、途中3名の退所があり、他事業所との併給利用も増えていることから、年間の利用率は59.9%に留まった。

体調不良等による欠席が増えていることや、新型コロナウイルス感染症により新規利用が進んでいないことが要因と考えられる。

#### 2 相談支援・地域連携の充実

相談支援事業所、市町村、支援学校等地域における関係機関と連携を図りながら、新規利用の相談や併給利用等に関して、他事業所との情報共有を行った。

#### 3 日中活動の充実

コロナ禍において活動は制限されたが、徹底した感染防止策を講じながら、様々な活動を提供した。特に、高齢化や重度化対策として、ウォーキングに加えて、レクリエーションダンス等の新規プログラムを取り入れ、健康づくりに力を入れた。また、自閉症者には、構造化を取り入れて自立課題に取り組んだ。また、個室で落ち着いて取り組める環境を提供した。

### 4 意思決定支援の充実

利用者の表現・表出ができるように、特に、視覚優位の効果の高い絵カードや写真等を用いながら、希望するプログラムを利用者の意思を尊重して、自発的に選択し、適切に行動できるように支援の充実を図った。

### III 利用者の状況

第1表 利用の状況 (令和3年3月末日)

月	契約者(人)	開所日(日)	延利用者(人)
4	21	22	258
5	21	21	245
6	21	22	279
7	20	23	284
8	19	23	268
9	19	21	255
10	19	22	265
11	19	22	264
12	19	23	271
1	18	23	260
2	18	20	231
3	18	23	272
計	232	265	3,152

第2表 障害支援区分 (令和3年3月末日)

障害区分	男	女	計
2	0	1	1
3	1	0	1
4	4	1	5
5	5	2	7
6	4	0	4
合計	14	4	18
平均障害支援区分	4.7		
障害支援区分5、6の割合	67%		

※受給者証更新時に支援区分変更が3名

第3表 年齢区分 (令和元3年3月末日)

年齢区分	男	女	計
20歳未満	0	0	0
20～29歳	4	0	4
30～39歳	3	1	4
40～49歳	6	0	6
50歳以上	1	2	3
60歳以上	0	1	1
計	14	4	18
平均年齢	41.8歳		

第4表 利用者の居住先 (令和3年3月末日)

	自宅	つばき寮	グループホーム
男	11	0	3
女	3	0	1
計	14	0	4

第5表 送迎車利用状況 (令和3年3月末日)

	岡山便	倉敷・総社便	吉備中央町内便
男	5	2	7
女	1	0	1
計	6	2	8

新型コロナウイルス感染症の関係で緊急事態宣言が発令となり、ゴールデンウィーク期間は、送迎車の運行を停止した。また、9月には台風対策として、安全を確保するため、事業所を休みとして対応した。

## IV 事業の実施状況

### <健康・衛生管理>

歯科検診・定期健康診断の実施のほか、看護師による毎日の健康確認に努めるとともに、感染症対策として検温・手洗い・うがい・手指消毒を徹底して、注意喚起をした結果、新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染はなかった。

### <外部講師による活動>

新型コロナウイルス感染防止のため、5月に外部講師を招いての活動は中止となり、7月に再開したものの、12月から再び中止となった。

内容	開催日	内容
音楽	第3水曜日	楽器(キーボードなど)音に合わせて体を動かす。
体操	第4水曜日	ゲーム・ボールなどで機能維持・気分転換を図る。
造形	第3木曜日	油粘土を素材にして、個々の特徴が現れる作品の制作
体育	第1. 3. 4金曜日	レクリエーションを通じて身体機能維持増進を図る。

### <地域ボランティア活動>

新型コロナウイルス感染防止のため、計画していた地域ボランティア活動は、1年を通じて中止せざるを得なかった。

活動場所	日程	内容
特別養護老人ホーム 吉備高原賀陽荘	第3月曜日	レクリエーション補助、交流等実施
総社宮	第3水曜日	老人クラブと合同で清掃奉仕作業を実施

### <行事の状況>

日程	場所・展示・内容	
4月	家族会総会・春祭り	中止
6月	ふるさと祭り	
7月	社会見学	
10月	研修旅行	
11月	レクリエーション大会 (事業所内)	開催
12月	ホワイトパーティー (事業所内)	
1月	初詣 総社宮 (町内)	

### <見学・体験利用者の状況>

特別支援学校より相談や見学が3件あったが、いずれも高校1~2年生であり、コロナ禍でもあることから、体験利用については、令和3年度に改めて実施を検討することとした。

### <送迎関係事故>

月日	状況
6月	<p>送迎車両が吉備高原都市内を走行中、タイヤが道路縁石に接触してパンクしてしまい、自走できなくなった。</p> <p>利用者及び送迎運転員にけが等はなかったため、利用者は健康確認を行った上で、別の車両により送迎を行うとともに、車両はタイヤを交換して事業所まで自走し、点検整備した。</p> <p>原因は、送迎運転員の前方不注意によるものであった。</p>

### <苦情解決>

事業所内外で発生したヒヤリハット事例及び事故の報告等を苦情解決第三者委員会に行い、適切なアドバイスをいただくとともに、今一度検証して、事業運営や利用者サービスの向上を図った。

苦情解決第三者委員会

年3回開催（7月・11月・2月）

### <虐待通報案件>

施設外での利用者に関し、地域住民から虐待通報があったとの連絡が、7月13日に県権利擁護センター及び吉備中央町にあった。これを受け、7月31日には、対象利用者の援護機関である岡山市および指導機関である岡山県備前県民局から訪問調査があり、8月と10月の2度、岡山市に対して報告書の提出を行った。その結果、11月には、岡山市から虐待には当たらないとの報告を受けた。

### <災害対策>

消火・避難・通報等の消防訓練を実施するとともに、業者による防火設備の点検や消火器・避難経路等についての自主点検を実施した。

また、地震発生を想定した防災訓練や非常時の食料備蓄などについての確認を行った。

### <職員研修>

強度行動障害養成者研修の受講を予定していたが、コロナ禍で開催は中止となった。虐待通報案件の発生に伴い、所内研修として、利用者に対しての言葉かけ、車いすの介助方法等について研修を行うとともに、他法人から講師を招いて、介護学習会を開催するなど、職員全員が共通認識を持って介護に充てるよう、資質向上に努めた。

### <家族会との連携>

新型コロナウイルス感染拡大により、家族会が活動を自粛したため、利用者・家族・事業所が一体になった活動はできなかったが、誕生日プレゼントやお茶会開催に対する助成をいただいた。

### <学生実習の受入>

新型コロナウイルス感染対策のため、学生の受け入れについては、年間を通じて中止した。

## V 第3期中期計画の進捗状況

障害福祉サービスの充実として、定員の充足を図りながら、「プログラムの見直し」「作業活動の導入」「送迎サービスの充実」を掲げているが、いずれの項目においても、一層の改善を必要とする状況にある。

今後、高齢知的障害者や重度障害者支援に対して人材育成や資質向上を図り、当事業所におけるサービスの充実を加速させたい。

# 吉備の里チャレンジ

## 令和2年度 事業報告書

### I 概要

障害者と雇用契約を結び、外構維持管理清掃業務、建物清掃、農作物の栽培作業及び調理業務を行いながら、仕事に関わる知識の習得や能力・技術の向上に向けた支援を行った。

#### 事業の内容（作業）

①	屋内清掃業務	受託業務
②	屋外整備業務	受託業務
③	給食提供業務	受託業務

#### 組織体制

利用定員 20名	
管理者	1名
サービス管理責任者	1名
生活支援員	1名
職業指導員	8名(兼務を含む。)
作業員	7名(兼務を含む。)
賃金向上達成指導員	1名
看護師	1名
栄養士	1名

### II 事業計画（重要事項）の検証

#### 1 就労機会の提供と作業能力の向上

障害者総合支援法、労働基準法をはじめ関係法令を遵守し、屋内清掃業務、外構清掃業務及び調理業務を行うことで、作業訓練と就労支援を行った。

また、障害特性を考慮し、それぞれに合った作業への配置を行うことで支援の質の向上を図った。

#### 2 安全で安心な職場づくり

安全には十分な配慮を行いながら作業に取り組んでいたが、今年度は労災等の事故は6

件発生した。今後も継続して安全で安心な職場づくりに取り組む。

### 3 賃金

最低賃金を確保した賃金を支給することが出来た。

法改正日： 令和2年 10月 3日

最低賃金： 833円 → 834円

### III 利用者の状況

第1表 利用の状況（利用定員20名）

月	在籍数 (人)	開所日 (日)	延人数 (人)	人数/日 (人)
4月	21	30	457	15.2
5月	21	31	442	14.3
6月	21	30	453	15.1
7月	21	31	461	14.9
8月	21	31	437	14.1
9月	21	30	441	14.7
10月	21	31	453	14.6
11月	20	30	395	13.2
12月	21	31	474	15.3
1月	21	31	441	14.2
2月	21	28	411	14.7
3月	21	31	457	14.7
計	251	365	5,322	14.6

第2表 入退職者の状況

入職者	1名
退職者	1名

第3表 生活の場の状況(3月末時点)

生活の場	男(人)	女(人)	計(人)
地域生活ホーム	11	5	16
つばき寮	1	1	2
自宅	2	1	3
計	14	7	21

第4表 年齢別構成 (3月31日現在)

年齢区分	男(人)	女(人)	計(人)
20歳未満	0	0	0
20～29歳	2	1	3
30～39歳	4	2	6
40～49歳	4	3	7
50～60歳	4	1	5
計	14	7	41.9歳

第5表 出身地別構成 (3月31日現在)

出身地区分	男(人)	女(人)	計(人)
岡山市	3	2	5
倉敷市	1	0	1
総社市	1	0	1
玉野市	1	0	1
笠岡市	1	2	3
真庭市	1	0	1
井原市	0	1	1
吉備中央町	5	1	6
里庄町	1	0	1
美咲町	0	1	1
計	14	7	21

#### IV 事業の実施状況

法人外の事業所から受託した外構維持管理清掃業務（草刈・草取作業、松喰木伐採、樹木剪定等）や建物清掃業務（屋内清掃業務）、法人内の調理業務、農作物の栽培・販売業務を行った。

第6表 障害福祉サービス等収入

延べ営業日	365日
延べ利用者数	5,321人
福祉サービス収入	43,394,710円
障害者雇用調整金等	10,246,500円

#### <屋内清掃業務>

第7表 受託先及び内容

主要受託先	内容
国立吉備高原職業リハビリセンター	清掃業務
吉備中央町 企画課	吉備北公園維持管理
株式会社 吉備 NC 能力開発センター	宿舎・社屋清掃業務

第8表 業務体制

職業指導員	常勤1名、非常勤2名 (7.5h,4h)
勤務時間	7:30～16:00 (7.5h)
利用者(男子)	5名
利用者(女子)	4名
勤務時間	7:30～15:30 (6h)

#### <屋外清掃業務>

第9表 受託先及び内容

主要受託先	内容
吉備中央町水道課	上水道施設草刈清掃業務 簡易水道施設草刈清掃業務 浄化センター外構管理業務
国立吉備高原職業リハビリセンター	プール管理業務 外構維持管理業務
国立吉備高原医療リハビリセンター	外構維持管理業務

※その他、随時受託

第10表 業務体制

職業指導員	常勤3名
勤務時間	8:00～17:00 (8h)
利用者(男子)	7名
利用者(女子)	0名
勤務時間	8:30～16:30 (6h)



<調理業務>

第 11 表 受託先及び内容

受託先	内容
社会福祉法人 吉備の里	調理業務

第 12 表 業務体制

職業指導員	常勤 3 名
栄養士	常勤 1 名
作業員	非常勤 4 名 (8h,7.5h,4h)
勤務時間	5:00~19:00(シフト)
社員 (男子)	1 名
社員 (女子)	4 名
勤務時間	7:10~18:45 (6h シフト)

<賃金支給>

岡山県の最低賃金が令和 2 年 10 月より 833 円から 834 円に変更となったため、昇給して対応した。

第 13 表 賃金支給状況

内容	総支給額	平均月額
金額	26,582,916円	105,908円

<食事提供>

利用者の作業場所（屋内・外構・給食）が異なっているため、昼食については、吉備の里チャレンジが提供している給食だけでなく、本人の要望を受け、外部の宅配弁当及び職業リハの食堂を利用することとした。

<健康管理支援>

定期健康診断を実施し健康管理に努めた。今年度はインフルエンザ感染者がなかった。

<利用者研修>

利用者間の親睦を深めるため、11月に日帰り研修を実施、1月には防災についての研修を行い、安全確保について理解を深めた。

<相談支援>

個別支援計画の作成に当たり、新型コロナウイルス感染対策のため利用者のみへの説明・確認となったが、個別懇談を 10 月、3 月の 2 回開催し、利用者個々の意向を十分に支援計画に盛り込むことができた。多くの利用者からは、長期間に渡って利用させてほしいとの要望があった。

その他の日常的な相談については、家族やグループホーム等の支援者と連携を図って適切に対応した。

<職員教育の推進>

利用者支援の基礎から専門分野に至るまで職員個々の段階に応じた研修等への参加を進め、全職員の資質の向上に努めた。

<作業環境の整備>

安全・衛生的で働きやすい職場環境にするため、グループごとの作業場及び休憩所の環境美化を促進した。

<安全管理>

防災訓練を定期的に行うとともに、作業で使用する機械の操作等安全教育を利用者及び職員に行い、作業現場での安全確保に努めた。

しかし、令和 2 年度は、6 件の労働災害が発生した。

月	内容	対象者
5 月	・清掃道具の片づけ中に倉庫のドアで指を挟む。	利用者
	・機械が当たり打撲	職員
7 月	・転倒による肘の裂傷	利用者
10 月	・蜂刺され	利用者 2 名職員 1 名

<行事实施状況>

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、

予定していた平成芋の会への参加及び初詣は、中止とした。

月	内容	場所
10月	日帰り研修旅行	県外
1月	利用者研修	事業所内

#### <苦情解決>

福祉サービスに対する苦情として受け付けたものは、なかった。

#### 【第三者委員名簿】

所属	氏名
前吉備中央町社会福祉協議会 副会長	黒田 員米
元塚本内科医院居宅介護事業所 管理者	柳原富美男

いなかった。

新規利用の推進については、定員増が出来ていないため、退職者の補充として計画期間中に5名の新規利用を受け入れている。

## V 第3期中期計画進捗状況

障害福祉サービスの充実として、「請負作業の受注拡大」「利用定員の拡大」「自主生産作業の検討」を計画している。

請負作業の受注拡大については、国立吉備高原職業リハビリテーションセンターや吉備中央町を中心に、優先発注を受けて、順調に受注できている。

利用定員の拡大は、平成29年度から続いた就労継続支援A型事業所の障害者大量解雇問題の影響から、行政により定員増が制限されていることもあって計画は進んでいない。

自主生産作業の検討では、福祉農園において、「黒ニンニク」の生産を目指してニンニク栽培に挑戦している。

今年度は少しではあったがNPO会館での販売を行い、次年度に向けニンニクの栽培を行っている。

一般就労の促進では、就職に至った方は

# 吉備の里なでしこ

## 令和2年度 事業報告書

### I 概要

令和2年度は、多床室から個室化への改修・増築を終え、入所定員の減員（40人⇒36人）及び短期入所（4人）の事業開始など、支援上の大きな転換期を迎えた1年となった。

新事業（短期入所）の開始により、「自立訓練事業」及び「就労移行支援事業」の日中の訓練等給付サービスと「施設入所支援」を基盤に、一般就労後6カ月を経過した者に対する「就労定着支援事業」と「短期入所」を加え、5事業を展開するに至っている。

新型コロナウイルス感染症への対応のため、社会性生活支援、求職活動支援の他、余暇支援等も制限を加えながら生活の質を維持し、支援を展開するという難しいバランスの中での1年であったといえる。

### II 事業計画（重要事項）の検証

#### 1 新規利用者の確保

支援学校の他、相談支援事業所との連携により年度内に11名の新規利用者を確保することができた。令和2年度の特筆すべき点として、多様な相談機関から受けた相談が新規利用につながった点が挙げられる。

所属	男性	女性	計
岡大附属特別支援学校	1	0	1
誕生寺支援学校	2	1	3
岡山東支援学校	2	1	3
岡山西支援学校	1	0	1
倉敷まきび支援学校	1	0	1
児童相談所	0	1	1
女性相談所	0	1	1
合計	7	4	11

※岡山東支援学校の男性1名は年度途中で利用開始

#### 2 自立訓練の充実

自閉症スペクトラムの症状がある利用者が増加し、その家族との関わりが重要になるなど、支援の内容が多岐にわたってきているため、一層工夫する必要が生じてきた。

また、医療機関等との連携の強化が必須となっている利用者も多く、訓練の途中で方向性を変更せざるを得ない事例も生じているため、支援内容や訓練プログラムの一層の充実と柔軟な対応が必要となっている。

#### 3 就労による社会参加の推進

新型コロナウイルスにより活動に制限がある中で、就労移行支援事業を利用し、さまざまな求職活動を実施した結果、4名が一般企業への就職を果たした。

就労継続支援A型支援事業の他、B型への移行も含め、進路先は以下のとおりとなっている。

区分	男性	女性	計
一般就労	1	3	4
就労継続支援A型	2	1	3
就労継続支援B型	2	0	2
合計	5	4	9

#### 4 地域移行の推進

吉備中央町内での就労先が飽和状態であるため、岡山県下全域を対象とし、就労先に通勤できる生活の場の確保に努めた。

就労移行支援事業を修了して就労した9

名のうち、8名は共同生活援助事業（グループホーム）を利用し、岡山市・倉敷市・総社市・久米南町・吉備中央町に居住している。

就職先と生活の場を設定するに当たっては、共同生活援助事業所の空き室が少ないため、利用できる時期に速やかに移行できるようマネジメント力が求められるようになった。

### 5 就労定着支援事業の拡大

令和2年度は、延べ12名の利用者（3月末時点は11名）について、最低月1回の訪問により助言や調整の他、企業の支援者等と情報の共有化を図った。

これまでは、順調に利用者を増やしてきたが、令和2年9月末をもって事業開始から3年が経過し、利用期限が満了となる者も出始めたことから、今後は就労移行者数の増加が事業利用者数の増加に直結することとなった。

事業所	対象者	開始日
佐川急便	男性	H31.1.1～
岡大グッドジョブ	女性	H31.1.1～
岡大グッドジョブ	女性	R1.6.1～
シーピー化成	男性	R1.6.1～
ハロワーク津山	男性	R1.8.1～
ホテルルートイン津山		R3.1.4～
大黒天物産	男性	R1.9.1～
(株)Lee	男性	R1.11.1～
シノブ・フーズ岡山	男性	R1.11.1～
(株)Lee	男性	R1.12.1～
山陽マルナカ	男性	R2.7.1～
サンデリカ岡山	男性	R2.7.1～
Vシステム	女性	R2.8.1～

## Ⅲ 利用者の状況

第1表 日中活動の利用状況（通所者を含む。）

月	自立訓練事業			就労移行支援事業		
	計	男性	女性	計	男性	女性
4月	20	13	7	18	12	6
5月	20	13	7	18	12	6
6月	20	13	7	18	12	6
7月	20	13	7	18	12	6
8月	20	13	7	18	12	6
9月	19	12	7	17	12	5
10月	19	12	7	17	12	5
11月	19	12	7	17	12	5
12月	18	12	6	17	12	5
1月	17	11	6	13	10	3
2月	17	11	6	13	10	3
3月	17	11	6	15	10	5
計	226	146	80	199	138	61

第2表 施設入所支援の利用状況

月	初日在籍	男性	女性
4月	37	25	12
5月	37	25	12
6月	37	25	12
7月	37	25	12
8月	37	25	12
9月	35	24	11
10月	35	24	11
11月	35	24	11
12月	34	24	10
1月	30	21	9
2月	30	21	9
3月	32	21	11
合計	416	284	132

第3表 障害の状況

(療育手帳区分) ※令和3年3月末日

区分	男性	女性	合計
A	0	0	0
B	22	9	31
その他	0	1	1
合計	22	10	32

(障害支援区分) ※令和3年3月末日

区分	男性	女性	合計
1	1	0	1
2	11	3	14
3	5	7	12
4	4	0	4
5	1	0	1
6	0	0	0
合計	22	10	32

第4表 年齢別内訳 ※令和3年3月末日

区分	男性	女性	合計
20歳未満	11	4	15
20～25歳	11	6	17
合計	22	10	32

#### IV 事業の実施状況

##### 【自立訓練事業】

地域生活を営む上で必要な日常生活スキルの向上を図るための訓練を実施し、就労移行支援事業につながる基本的な労働習慣の育成を行った。

また、支援学校の他、体験利用者の受入れ先としての機能を充実させ、支援学校や相談支援事業所との連携を深めるよう努めた。

〈日常生活訓練：8:30～16:00〉

曜日を決め、身辺処理・清掃・金銭管理などの基本的な生活スキルの習得、向上を目指し継続的な訓練を実施した。

〈調理訓練〉

集団で密にならないように環境を設定し、衛生状態にも助言を行いながら、初歩的な調理スキルの習得を目的として訓練を実施した。

〈外出訓練〉

少人数と新型コロナウイルスの感染が少ない地域を選択し、公共交通機関の利用学習を実施した。特に、療育手帳の使用方法や緊急時の連絡方法などについては、事前に確認して行った。

〈作業訓練：10:00～15:00〉

自動車部品加工の下請け作業、農作業や清掃作業を通じ就労に向けた基礎訓練を実施した。

作業訓練で得た収入は、生活に必要な日用品の購入や外出など、金銭使用の学習にも充てた。

〈進路相談〉

自立訓練事業2年目の利用者については、就労移行支援事業利用に向けた体験アセスメントを実施した他、必要に応じ、1年目利用者の早期移行や年度の途中での移行についても、本人の意向確認や関係者からの意見聴取を行うなどして、柔軟に対応した。

##### 【就労移行支援事業】

事業所内の生産活動や吉備中央町内での職場実習の機会を提供し、就労に必要な知識

と能力の向上を図った上で、ハローワークや職業センターを中心とした関係機関、生活の場の支援者と連携を図りながら求職活動を実施した。

〈作業訓練：8：30～16：00〉

花卉栽培、農作業を事業所内訓練の中心に位置づけ、職業前訓練を実施した。

また、近隣企業の理解と協力により、施設外支援として職場実習を行い、一般企業の中での技術の習得を支援している。

〈生活支援〉

他法人の共同生活援助（グループホーム）を利用する事例の増加に伴い、金銭管理の支援の他、必要に応じて社会福祉協議会と連携するなどの支援を行った。

また、安全な通勤を目的として、自転車や公共交通機関の利用学習を行った。

近年では、スマートフォンを介して SNS 上の問題も多くなっていることから利用者研修を開催し、使用方法の指導を行った。

〈求職活動支援〉

新型コロナウイルスの感染拡大により、就職内定者の就業が遅れることや圏域での集団面接会が中止になるなどの障壁もあったが、就労支援員による職場開拓やハローワークとの連携を図った結果、7名の雇用に結びついた。

事業所名	所在地	区分	生活の場
エム・1-	岡山市	一般	宿泊型
山陽マルナカ	岡山市	一般	宿泊型
金澤電子	総社市	一般	グループホーム
CR 物流	倉敷市	一般	グループホーム
トモニー	岡山市	A型	グループホーム
リノプラス	岡山市	A型	グループホーム
クローバー	総社市	A型	グループホーム

【施設入所支援】

個室化を受け、生活の質を向上させるための施設内ルールの試行や見直しなど、グループホームや実際の生活に近似させた生活空間の中で「自分らしい生活」の形成を支援した。

世代の近い利用者間のトラブル等も発生するが夜間支援員と情報を共有し、個別に支援することで安全な生活環境を整えることに配慮した。

〈行事〉

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染状況を常に意識した計画を立案していたが、結果として行事の開催はすべて中止とし、生活の質を低下させてしまった部分があることは否めない。

〈健康管理〉

看護師を中心とした予防の他、支援者・職員を対象として新型コロナウイルスの情報提供や掲示による情報提供に努め、健康管理の支援に務めた。

精神科医療機関の受診者の増加に伴い、服薬内容や主治医の診断など、必要に応じて職員に情報提供し、支援の共通化を図った。

また、障害基礎年金の申請等についても看護師を中心とした支援につなげ、将来的に予想される医療との関係性も意識した取組を始めている。

〈自治会活動〉

毎月1回ないし2回の頻度で自治会代表者会議を実施し、利用者の意見を徴収して支援者との間で検討する内容を確認する時間を設けている。

個室化に伴い、個人単位の責任の部分も

多くなっているが社会を意識した活動を学ぶ一環として取り組んでいる。

#### 【就労定着支援事業】

一般の企業に就職し、6か月を経過した者に対し、月1回以上、就労先や生活の場を訪問し、必要に応じてケア会議を開催しながら就労の継続に向けた助言や就労上の調整を行った。

令和3年3月末時点では11名を対象に支援を行っているが、契約期間を満了し退職した者に対しても、退職前から調整することで速やかな再就職につなげることができた。

また、退所後6か月に至るまでの期間中も月1回は訪問し、フォローアップを行うことで、就労定着支援事業開始後に企業との連携がスムーズに図れるよう体制を整えた。

継続して就労している元利用者らに対する企業からの評価を就労移行支援事業の利用者に情報提供し、就労に対しての視点を意識できるようフィードバックを行った。

#### 【短期入所】

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、新規利用者の受入れは抑制していたが、年度内を通じて2名（延べ3名）の短期入所を受入れ、結果として就労移行支援事業と施設入所支援事業の利用につながった。

### V その他の施設運営

#### <見学・利用相談・体験利用の受入れ>

新型コロナウイルスの感染拡大もあり、支援学校高等部2年生の体験利用を抑制し、3年生を中心に少人数を長期間にわたり体験利用として受入れを行った。

所属	男性	女性	計
西備支援学校	1	1	2
倉敷まきび支援学校	5	1	6
岡山東支援学校	1	1	2
健康の森学園支援学校	0	1	1
誕生寺支援学校	2	2	4
岡山瀬戸高等支援学校	1	1	2
岡山聾学校	1	0	1
岡山西支援学校	1	0	1
岡大附属支援学校	1	0	1
各相談所等	0	2	2
相談支援より	0	1	1
行政より	1	1	2
合計	14	11	25

#### <苦情解決>

施設内における苦情解決責任者・苦情受付担当者及び外部の第三者委員2名を配置し、苦情解決体制を整えている。

令和2年度においては、苦情は0件であったが、定期的に第三者委員会を開催し、現状報告と課題を伝え、助言を受けた。

#### 【第三者委員名簿】

所 属	氏 名
前吉備中央町社会福祉協議会 副会長	黒田 員米
元塚本内科医院居宅介護事業所 管理者	柳原富美男

#### <防災対応>

個室化になったことから避難経路の見直し、消化器設置場所の変更を行うとともに、実際の火災や震災に対応できるよう定期的な訓練を実施した。

#### <防犯対策>

防犯カメラや人感センサーを設置し、屋外フェンスの施錠確認を行うなど、昼夜を通じて外部者の侵入を防ぐための対策を講じた。

また、入寮に当たっては、緊急やむを得ない場合には居室内に入室・確認できるよう同意を得て、有事に対応できる体制を整えている。

#### <学生実習の受入>

保育士資格習得のための「保育実習」と社会福祉士資格習得のための「相談援助実習」に関しては、新型コロナウイルスの感染状況にかんがみ、年間を通じて受入れを中止とした。

### VI 第3期中期計画の進捗状況

吉備の里なでしこからの地域移行及び一般就労移行は、吉備中央町以外へ行くことが多くなってきており、広域に渡る情報収集が必要となってきている。

新規利用の促進については、おおむね計画に沿った利用者の確保ができているが、年度途中に移行していくケースが増加していく中で、定員を充足するための利用者の確保が課題となっている。



# 吉備の里つばき寮

## 令和2年度 事業報告書

### I 概 要

平成22年4月から開始した宿泊型自立訓練事業（生活訓練）では、一般就労している障害者や就労継続支援A型・B型、就労移行支援、生活介護等の障害福祉サービスを利用している障害者を受け入れ、日常生活スキルの向上等を目的とした生活訓練や余暇活動の充実に向けた各種の支援を行うとともに、地域生活への移行を促進した。

また、平成31年4月から事業を開始している空床を活用した短期入所では、地域生活を送る障害者の宿泊を定期的に受け入れるなどした。

### II 事業目標（重要事項）の検証

#### 1 個別支援(訓練)サービスの充実

地域生活への移行に向け、規則正しい生活の確立を基本に、生活スキルの習得や余暇活動の充実等利用者個々のニーズに応じた訓練と必要な支援の実施に努めた。

コロナ禍で行事が中止になるなど、例年とは異なる対応を求められたが、全体的には、規則正しい生活、落ち着いた日常生活、日中活動への参加ができて利用者が多かった。

また、2年目を迎えた短期入所（空床型）は、定期利用する利用者が少しずつ増え、地域生活の中での生活リズムづくりの一助となってきた。

なお、国・県の補助金が得られたため、年度当初には予定していなかった個室化工事を急遽実施し、生活環境の整備を行うことができた。

#### 2 地域生活移行の推進

宿泊型自立訓練の利用期間は原則2年間となっているが、延長者も含めて7名を地域生活に送り出すこととなった。

令和2年度は、9名を目標としていたが、新型コロナウイルス感染の拡大の影響から、期間満了を迎えても地域移行できず、2名がやむを得ず利用期

間の延長を行うこととなった。

令和2年度における退所利用者の地域移行の内訳については、下表のとおり。

【退所者・地域移行の状況】

移行先等	男	女	計
グループホーム（法人内）	3	2	5
グループホーム（法人外）	1	1	2
自 宅	0	0	0
計	4	3	7

#### 3 新規利用の促進

当初計画では、10名の新規利用を目標として募集活動を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から見学者や体験利用者が減少し、6名が新規利用することとなった。

しかし、退所者も少なくなったことから、利用者数としては比較的安定して推移することとなった。

入所に向け、精神科医療機関等からの問い合わせや相談が増えてきており、新規入所者6名のうち3名は精神障害者であった。

令和2年度における新規利用者の内訳は、次のとおり。

【新規利用の状況】

入所前の所属	男	女	計
障害者支援施設(法人内)	1	0	1
在 宅	2	2	4
医療機関入院	1	0	1
計	4	2	6

#### 4 短期入所（空床型）の利用促進

令和2年度は、当初から定期的に利用する障害者がいた上に、年度途中からの新規利用者もいたことから、利用は年間を通じて好調に推移した。

また、新規利用の場合には、職員に遅番勤務を設

定して対応したため、混乱なく利用することができた。

なお、短期入所が功を奏して、宿泊型自立訓練と合わせると1日当たり17.5人の利用となり、利用率は87.6%となった。(前年度は15.6人77.9%)

### Ⅲ 利用者の状況

#### 【宿泊型自立訓練】

年度内に新規入所者が6名、退所者が7名あり、年間平均利用者数は16.2人となった。

年間を通じて契約者数は16～18名となり、定員を下回る状態であったが、短期入所の受け入れが多かったことから、全体的としては昨年度を大きく上回る利用者数となった。年間の利用状況は、次のとおりであった。

第1表 利用状況

項目 月	宿泊型		短期入所	
	利用者数	延べ人数	利用者数	延べ人数
4月	16	443	3	31
5月	16	474	3	27
6月	17	502	4	35
7月	18	536	5	43
8月	18	509	4	44
9月	17	499	4	40
10月	18	544	3	35
11月	18	511	3	35
12月	18	536	5	42
1月	18	511	5	46
2月	16	424	6	51
3月	17	421	7	59
計	207	5,910	52	488

令和2年3月31日時点における宿泊型自立訓練事業の利用者の状況は、次のとおり。

第2表 年齢別構成

年齢区分	男	女	計
18～19歳	0	0	0
20～29歳	6	1	7
30～39歳	2	5	7
40～49歳	2	0	2
50～59歳	1	0	1
計	11	6	17

第3表 障害支援区分別構成

障害支援区分	男	女	計
1	0	0	0
2	3	5	8
3	3	0	3
4	2	1	3
5	0	0	0
6	0	0	0
未判定	3	0	3
計	11	6	17

第4表 手帳区分別構成

手帳区分	男	女	計
身体障害者手帳	0	0	0
療育手帳	11	4	15
精神保健福祉手帳	1	3	4
計	12	7	19

※重複障害者 男女各1名

第5表 出身地別構成

市町村	男	女	計
岡山市	4	2	6
倉敷市	2	1	3
笠岡市	1	1	2
早島町	1	1	2
里庄町	1	1	2
吉備中央町	2	0	2
計	11	6	17

第6表 日中活動区分別構成

日中活動先	男	女	計
一般企業等	1	2	3
就労継続A型	3	1	4
就労継続B型	7	3	10
就労移行支援	0	0	0
生活介護	0	0	0
職業訓練校	0	0	0
計	11	6	17

#### IV 事業の実施状況

地域移行に向けた日常生活スキルの向上を図ることを目標とし、健康・衛生管理、身辺処理、金銭管理指導等を行うとともに、食事提供や余暇活動等の支援を行った。

##### <食事提供>

日常の食事は、法人給食委員会での協議や嗜好調査を経て、季節感のある食事の提供を行った。

その中で、配膳、片付け、清掃については、利用者全員が当番制で行い、個々の役割意識を高められるよう設定した。

また、日曜日の昼食では、利用者と職員で月1回程度、調理実習を実施して、楽しみながら簡単な調理が習得できるように支援した。

##### <健康・衛生管理支援>

看護職員が中心となり、日常的な服薬確認や体重・血圧測定、定期健康診断などを行いながら、利用者の健康管理に努めた。

また、利用者の中には糖尿病のある利用者もいたことから、医療面のケアや指導を行うとともに、規則正しい生活の維持・継続に向けた支援を行った。

さらに、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、手洗いや手指消毒の励行、マスクの着用、外出や外泊の自粛を働きかけるなどして感染予防に努めた結果、インフルエンザやノロウイルスを含めて、感染者は出なかった。

##### <余暇活動支援>

寮内において、利用者がゆとりを持ち、活力に満ちた生活が送れるよう施設行事の開催や地域行事への参加を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、その多くが中止を余儀なくされることとなった。

そのため、寮生活の中で利用者がストレスを溜めないよう工夫しながら日常の支援を行った。

##### 【 行事開催・参加の状況 】

月	行事名	場所等
4月	利用者自治会総会	寮内
	花見会	(中止)
	さんさん祭	(中止)
	新利用者歓迎会	寮内
	県障害者スポーツ大会	(中止)
6月	自治会旅行	(中止)
8月	北部住区夏祭り・鬼伝祭	(中止)
9月	合同運動会	(中止)
10月	吉備高原車いすふれあいロードレース大会	(中止)
12月	クリスマス・忘年会	寮内
2月	映画鑑賞・買物訓練	(中止)
3月	慰労会・送別会	寮内

##### <利用者研修>

寮内での生活を地域生活、社会生活の一部に置き換え、それらの基本を学ぶための研修を定期的実施した。

多くの利用者が日常生活の中で自分本位になっている部分などが確認でき、意識の改善につながった。

##### <相談支援>

個別支援計画の作成に当たり、個別懇談を行って利用者及び家族の意見・要望を聞きながら計画に盛り込むよう心がけた。特に、サービス内容の変更や障害福祉サービスの変更に当たっては、本人・家族・関係機関等との連携を密にするとともに、丁寧な説明を実施して相互に確認できるよう適切な支援に努めた。

### <利用促進>

精神科医療機関を中心に、新規利用に向けた問い合わせは多くあったが、新型コロナウイルス感染拡大から、それ以上進展するものは少なかった。

そのため、県内の相談支援事業所等へ新規利用者紹介の依頼を行うとともに、法人内の事業所と連携を図って利用を呼び掛けた。

また、閉鎖を計画しているグループホームに対して利用者の受入れを打診するなど、積極的な働きかけを行った。

### <見学・利用相談・体験利用の受入>

吉備の里なでしこをはじめ、市町村や相談支援事業所、支援学校等と連携を図りながら、新型コロナウイルス感染対策を取った上で、見学や利用相談を積極的に受け入れた。

その中から興味を示した方には、施設をより深く理解してもらうために、空き部屋等を活用して3日～5日程度体験利用として受け入れを行った。

体験利用に当たっては、短期入所を活用してもらうよう働きかけており、短期入所の利用促進にもつながった。

### <生活環境の整備>

岡山県社会福祉施設等整備費補助金の交付を受け、10月から12月まで居室の個室化工事を行った。利用者にも好評であるが、寮のルールを見直す必要があるなど、新しい課題も出てきた。

また、岡山県からの指示を受けて、建物の定期点検を行い、必要箇所については修繕を行って、報告書を提出した。

### <安全管理>

消防計画に沿って防災訓練を行うとともに、設備の定期点検を行い、不備がある場合には早急に対応して安全の確保に努めた。

なお、個室化工事の完了に併せて消防計画の変更を届け出た。

### <苦情解決>

福祉サービスに対する苦情の申し出はなかったが、11月には苦情解決第三者委員への状況報告を実施して、サービス向上のためのアドバイスを受けた。

#### 第三者委員名簿

所 属	氏 名
前吉備中央町社会福祉協議会副会長	黒田 員米
元塚本内科医院居宅介護事業所管理者	柳原 富美男

### <家族の会との連携>

新型コロナウイルス感染拡大から家族の会の会合や行事が中止となったため、連携を図ることは難しく、利用者の帰省も少なくなったが、家族への個別の連絡は従来どおり行って連携を図った。

### <地域との連携>

地域住民会に北部住区自治会第6班の一員となっているが、新型コロナウイルス感染の影響から、行事等がなくなり、連携は縮減した。

### <利用者自治会支援>

利用者自治会は、行事が縮減したことにより活動は縮小したが、寮の運営などに対する意見にも耳を傾けるなどしてサービス向上に生かした。

## V 中期計画の進捗状況

地域移行と新規利用の促進を計画上の目標に掲げており、ともに目標値には届いていないものの、平成31年度から空床型短期入所事業を開始したことで、利用率の向上につながってきている。

また、今年度個室化整備工事を行ったことで、地域生活を想定した生活訓練が行いやすくなるとともに、利用者個々の課題が見えるようになったことから、地域移行に向けたサービスの向上につながっている。

# 吉備の里地域生活ホーム 令和2年度 事業報告書

## I 概 要

令和2年度は、100名の利用定員で共同生活援助事業(介護サービス包括型)の運営を行った。

共同生活住居の中での支援の質を高め、日常生活支援や金銭管理の支援、医療支援及び相談支援を中心とした個別の支援の充実を図った。

また、直接の支援者である世話人の支援力向上を目指して定期的に会議を開催した。

なお、一人暮らしを行う地域生活者に対し、居宅を訪問して、定期的な巡回訪問や随時の対応を行う自立生活援助事業については、対象利用者がいなかったため、休止状態が続いた。

事業推進体制

利用定員		100名
体制	管理者	1名
	サービス管理責任者	4名(兼務3名)
	生活支援員	8名(兼務3名)
	看護師	1名
	世話人	35名
	夜間支援員	6名

共同生活住居の設置状況

名称	入居定員	開設年度
嵯峨	6名	平成8年度
上野	5名	平成14年度
吉備1号(A)(B)	9名	平成15年度
吉備2号(A)(B)	10名	平成15年度
長坂	4名	平成17年度
さんSUN	6名	平成20年度
あじさい	4名	令和元年度
あざみ	2名	平成23年度
つつじ	5名	平成24年度

すみれ	4名	平成24年度
アンサンブル	8名	平成24年度
ヴェスタ	20名	平成24年度
あさがお	5名	平成27年度
さくら	4名	平成28年度
つばき	4名	平成30年度
アメニティー	4名	平成30年度
計	100名	

## II 事業計画(重要事項)の検証

### 1 定員の適正管理

定員100名に対し、入退所はあったものの、年間を通じて95～97名の利用で推移した。

新規入居者としては、吉備の里つばき寮から3名、吉備高原職業リハビリテーションセンターから1名の受入れを行った。

また、入居者より単身生活への移行及びグループホーム変更の相談を受け、令和2年度は3名が退居して、1名が自宅復帰し、2名が他法人のグループホームへ移ることとなった。

### 2 世話人の確保

共同生活住居の運営において、世話人の確保は急務であるため、欠員中であつたグループホームの代替世話人1名を新規採用した。

### 3 支援者間の連携の強化と支援の質の向上

障害への理解や、支援の方法について理解を深めることを目的として、定期的に世話人会議を開催していたが、新型コロナウイルス感染予防対策からホーム単位の会議へ変更するとともに、支援の質を維持するために、遅出勤務者が各

共同生活住居を訪問し、世話人と情報交換を行った。

また、世話人が事務所に気軽に入室し談話できる環境づくりに努め、支援方針等の共通理解を深めた。入居者の多くが日中活動として、多様な事業所や福祉サービスを利用しており、日中活動の支援者とも密な連絡を図り、活動の充実に向けて取り組んだ。

#### 4 安定した地域生活の支援（自立生活援助）

「Ⅴ 自立生活援助事業」に記載のとおり

### Ⅲ 入居者の状況

入居定員 100 名に対して月平均の入居契約者数は 96 名であった。入退去の状況については、退居者 3 名、新規入居者 4 名 であった。

第 1 表 利用（契約）の状況

月	男	女	計
4月	65	31	96
5月	66	31	97
6月	66	31	97
7月	66	31	97
8月	66	30	96
9月	66	31	97
10月	66	31	97
11月	66	31	97
12月	65	31	96
1月	65	30	95
2月	65	31	96
3月	66	31	97

第 2 表 年齢別構成

(令和 3 月 31 日現在)

年齢区分	男	女	計
20歳未満	0	0	0
20～29歳	14	6	20
30～39歳	15	9	24
40～49歳	19	10	29
50～59歳	12	6	18
60歳以上	6	0	6
計	66	31	97
平均年齢	41.2歳		

第 3 表 障害支援区分別構成

(令和 3 月 31 日現在)

障害支援区分	男	女	計
1	7	1	8
2	32	17	49
3	18	8	26
4	4	4	8
5	0	1	1
非該当・未	5	0	5
計	66	31	97

第 4 表 日中活動区分別構成

(令和 3 月 31 日現在)

日中活動区分	男	女	計
一般企業等	16	12	28
A型事業所	30	8	38
B型事業所	16	8	24
生活介護事業所	2	3	5
日中活動なし	2	0	2
計	66	31	97

## IV 事業の実施状況

### <生活支援>

食事を始めとして世話人による日常生活支援に加え、地域生活支援員が通院や外出支援、余暇支援等の他、地域生活ホームの共有部の清掃等を行った。

また、必要な利用者には入居者の意向を確認した後に居室内の清掃支援や同性による入浴介助を実施した。

### <食事提供>

世話人により、アレルギーの有無に注意し、手作りによるおいしい食事を安心して摂れるように朝・夕の、食事提供を実施した。

献立は、男女別や年齢構成、個人の嗜好や意向を考慮しながら立案しており、利用者の多くから満足しているとの声が聞かれた。

### <健康・衛生管理支援>

看護師を配置し、日常の健康管理の他、365日・24時間の体制で緊急時対応の充実を図った。

定期健康診断のほか、血圧、体重測定を行いながら日常の健康管理に努めた。

生活習慣病の発生が懸念される入居者が増加しており、血糖値の測定・インシュリン注射の支援など具体的な医療支援を実施した。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、手洗いや手指消毒の励行、マスクの着用、外出や外泊の自粛を働きかけるなどして感染予防に努めた結果、インフルエンザやノロウイルスを含めて、感染者は出なかった。

### <金銭管理支援>

利用者本人の同意を得ながら、世話人が日常的な預貯金の出し入れ、小遣い支給等の管理を行い、サービス管理責任者が、9月末・3月末時点の預り金について利用者・家族に報告を行った。

金銭の支出を理由なく制限することも障害者虐待に繋がることを支援者間で確認し、世話人にも理解し

てもらうように繰り返し指導を行った。

### <就労支援>

第4表にあるように入居者の日中活動の場所が「就労継続支援 A 型事業所」とする利用者が最も多くなっているが、加齢に伴う職業能力の低下による離職や、A 型事業所の B 型事業所への変更など利用者の雇用状況の変化等に対応した。

また、就労先事業所を訪問しながら、利用者の就労状況の把握を行い、事業所からの相談やトラブルの発生に対応するとともに、定期的にケア会議等を開催し、情報共有に努めた。

### <余暇活動支援>

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、例年開催していた行事も中止した。その中でも、利用者のストレスが溜まらないよう配慮し、支援を行った。

行事開催・参加の状況

月日	件名	場所
4.12	花見会（中止）	体育館
6.7	吉備の里ふるさと祭り（中止）	所内
7.19	家族の会バス旅行（延期）	岡山市
8.1	北部住区夏祭り（中止）	町内
10.10	ロードレース大会（中止）	町内

### <入居者研修>

支援している中で見られる入居者の課題などを入居者研修としてホーム単位で実施し、社会生活の中で活用できるように支援を行った。

### <その他の支援>

サービス管理責任者、生活支援員、世話人が協力し、家庭と連携を図りながら、各種の申請や調整等の支援を行った。

### <相談支援>

サービス管理責任者を中心に、新規利用に関する相談や家族関係の相談、利用者間のトラブルに関する相談など、利用者の安定した生活の維持をめざしてさまざまな相談を行った。

日常的な相談については、生活支援員や世話人が適切に対応し、入居者の安心した生活につながるように職員間で情報を共有して支援を行った。

### <利用促進>

吉備の里つばき寮からの新規利用者を受け入れるとともに、次年度の地域移行者を想定した利用計画を立案し、対応を行った。

### <生活環境の整備>

共同生活住居の構造物の中で老朽化している部分については、修繕を適宜実施し、快適な生活に繋がるように支援を実施した。

また、住宅の所有者から物件の返済を求められ、代替物件を準備したグループホームあじさいについては、入居者転居を支援するとともに、新しい住居での生活に早急に馴染めるようサポートした。

### <安全管理>

避難訓練や通報訓練を消防計画に沿って引き続き実施するとともに、防災機器の点検管理や避難経路の確認等を定期的実施した。

その上で、新しく世話人業務に就いた支援者には、防災管理や救命救急法の講習に参加してもらうなど、安全管理の意識向上に努めた。

さらに、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、手洗いや手指消毒の励行、マスクの着用、外出や外泊の自粛を働きかけるなどして感染予防に努めた結果、インフルエンザやノロウイルスを含めて、感染者は出なかった。

### <苦情解決・サービス評価>

相談支援事業所から、支援者の態度についての苦情が2件あった。該当職員へ注意するとともに、謝

罪し、関係回復に努めた。また「苦情解決事案」として対応し、第三者委員に報告を実施した。

苦情解決第三者委員

所 属	氏 名
前吉備中央町社会福祉協議会副会長	黒田 員米
元塚本内科医院居宅介護事業所管理者	柳原 富美男

### <家族の会との連携>

吉備の里家族の会は、新型コロナウイルス感染症の影響から、定例役員会のみが開催されたため、所長が出席して家族の会の運営方針の確認を行うとともに、事業所の方針や状況を伝えて情報の共有に努めた。

また、各種行事については、ほとんど中止となったが、ウインターイルミネーションインについては、例年同様に実施した。

### <地域との連携>

それぞれの住居が属する地域の住民自治会に入会して活動しているが、今年度はコロナ禍のため、楽しみにしていた地域行事も中止となる中、環境整備（一斉清掃）については実施され、多数の利用者が参加した。

地域の活動に参加することで障害者の地域生活への理解が深まることから、今後も積極的に支援を行う予定である。

## V 自立生活援助事業

### 1 概 要

障害者支援施設やグループホーム等から一人暮らしへの移行を希望する知的障害者や精神障害者等について、本人の意思を尊重した地域生活を支援するため、一定の期間にわたり、定期的



な巡回訪問や随時の対応により、障害者の理解力、生活力等を補う観点から、適時のタイミングで適切な支援を行うサービスである。

## 2 利用状況

契約者なし。

## 3 支援内容

基本 1 日/週 定期訪問 (職員計 2 名)

定期	生活面の相談 (掃除・洗濯・食生活)
定期	家賃や公共料金の相談 (経済面)
随時	体調や通院状況など健康面
随時	人間関係 (地域住民)
同行	通院や外出などの手続き・外出同行
ケア会議	職場との連絡会議・家主との契約更新等

## VI 第 3 期中期計画の進捗状況

事務所棟の整備については、予定どおり平成 29 年度中に完了し、共同生活援助事業実施のための基盤づくりができた。

利用の拡大に向けては、令和 3 年度末までにグループホームを 5 か所増設し、定員も 115 名とする計画であったが、令和 2 年度末で、グループホーム数は 1 か所増、定員は 100 名に留まっている。

これは、平成 29 年度にグループホーム下加茂を災害の危険性があるために廃止したこと、吉備中央町内に他法人によりグループホームが新たに設置されたことによるところが大きい。

今後は、他法人・事業所とも連携を図りながら、最終目標数にとらわれず、利用者ニーズに応じて必要数を整備していくこととしたい。